

詠

毎日歌壇

米川千嘉子 選

泣き放題の乳呑み児の泪よ我が家に零れ落ちる流れ星 須崎市 野中 泰佑

△評▽まだ見ぬ子を詠み続けてきた作者。いよいよ育児の日々が始まった。命の力にあふれて何と美しい「泣き放題」。

カフエに寄り窓辺に座る 母を脱ぎ向かいの席にすべてを置いて 横浜市 友常 甘酢

△評▽「おはらほひの時」母「であること」を逃れようとする歌。下句に微妙な美感が。

WBCに群れ咲きし歌も去りてのち翔平の傷 詠む歌はあらぬか 東京 真鍋 真悟

園児らのさよならの声合わさつてみんな言葉は枯れないこと 武蔵野市 北谷 雪

亡き妻と若死にせし息子問いかくる老木としていつまで生くる 四街道市 松田 保男

初めての役員はかりの町会「コロナの明けた祭の手探り」 名古屋市中区 谷 幹雄

余生こそ言ひて老後と言ひ替へる生活手段の話題となりて 横浜市 芝 公男

「食えない」娘の叱咤にうなだれてじわりと愛に従う我なり 春日市 林田 久子

子の返すかの日の言葉「わーション」我が家の用語「ニュー」の「和食」 高崎市 樋浦マサエ

老いしへの恋の噂が流れくる金木犀の香りをせて 秦野市 星 光輝

加藤 治郎 選

「黒」の字がときどきメールに現われて一部始終を監視している ふじみ野市 雨雨雨汰

△評▽不思議だ。「黒」には目があり足があるように見える。小さな虫がメールに潜んでいる。監視される不安がリアルだ。

暗闇で鳴くこおろぎに話しかけ楽しいことがあったかと聞へ 生駒市 宮田 修

△評▽闇の深い生駒の谷である。コオロギに気持ちを通じる。安らかな作品である。

ポケットに詩集を入れて行き先は決めてないのさケサランパサラン 川崎市 何村 俊秋

ゆづりけよ 海馬がこわれるまですと生きていけどどうかんちがい 花巻市 永汐 れい

悲しくてねむりぐすりに問いかける恋の終わりは何色ですか 岐阜市 山上 秋恵

ALL MY LOVEをきみをいつか泣かせてしまおう 福岡市 横井マリノ

満員で見えないけれど虫だよね彼女がずっと見ているものは 新座市 睦月へらけ

さげられぬ悲劇はあるよ 台風はだれも止らない海で産まれる 宮古島市 塩見 伴

お揃いの上着を羽織って朝露の中をあなたと歩きたかった 東京 森本 有

空の青、海も碧なる山も蒼、あおとこのは不思議な色だ 横浜市 高橋 理恵

水原 紫苑 選

浮かんで消えゆく雲は永遠に沈黙して神のふみだし 東京 石川 真琴

△評▽神はなぜ沈黙しているのだろう。だが、神の心を知るには、雲を見ればいいのかも知れない。

画用紙の白がなかなか埋まらない夢の世界は色がないから 倉敷市 中路 修平

△評▽色のある夢もあるというが、無彩色の夢の世界は豊かできがきつくせない。

流れ星追いかけてくるひたひたとうなじが焦げるまだ燃え尽きない 東京 高田 尚宏

どこだって淵だとおもつ自分の手で自分をこらせる生きものとして 京都市 小池ひろみ

靴磨き少年が虹を買い占めて僕は空を見上げなくなる 東京 仲原 佳

もう香るこたなき紅茶の枯葉色ゆめの出口のようなきびくびく 埼玉 玖嶋まへら

ひんやりとすいづく夜に胸の庭とけてそのまま鱈になる秋 岩沼市 アナコンタにひき

外つ国の炎の色は見ぬままに何を奏するバイオリン 松本市 飛 和

富士のように塔はきらめく灯台としての役目を果敢終えて 横浜市 永永 キヌ

心中をした覚えはなく(やむ)パールの下に枯葉は集う さびたま市 雨谷 詩穂

伊藤 一彦 選

柿本と栗木と桃井が集まって会議はフルーツバスケットめく 東京 石川 真琴

△評▽楽しい歌。柿本、栗木、桃井の3人がいる会議を「フルーツバスケットめく」とは。田ごごんな余裕がほしいもの。

西国にちゃんこ鍋屋の数多ありなせ胃袋は一つしかない 千葉市 芍 薬

△評▽臆面もなく「なせ胃袋は一つ」とつぶやいているのが面白い。食欲旺盛の作者。

店長の人間性を否定するよつで残せぬラーメンのつゆ ふじみ野市 雨雨雨汰

役に立たないことが好きなので種入りのブドウ選んで食べてる 横浜市 砂月 七

エッセンシャルワーカーなどと囃されて3年経たが時給千円 札幌市 田善 成男

今更に泣けてきたのが悔しくて涙を見せたいもてん 京都市 小池ひろみ

学費にと母が守りし段畑で趣味のぶどうを作る苦しみ 安芸高田市 菊山 正史

「戦後から八十年」とたぐさんのコメント一ターは戦争しらず 東大阪市 池田 健一

将棋指す大人にまじる子もいれば兵士にまじり銃持の子もいる 大阪市 吉田 昌之

生育は順調らしく蕎麦の花畑一面白くかがやく 秦野市 諸星 一枝

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(https://mainichi.jp/kadan-haidan/)でも受け付けています。他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから投稿できます

次回14日掲載します。